

今を生きる子どもたち

貧困と格差の拡大のなかで

Ⅳ

③



古屋市の熱田福社会
保育士
小堀智恵子さん

貧困に陥ると抜けだせないという事実は、貧困そのものではなくしていく施策が求められるというのを物

語っています。

保育園にお子さんを預ける親御さんの働き方が、子どもを育てる親の働き方で

子育てでできる働き方を

はなくなってしまうです。うちの保育園では、休日や別の保育園に預けて平日もフルタイムとか、フラックな働き方が目につきます。社会が、子どもを育てている家庭への配慮をしながらなっているんですね。

早寝早起きのリズムが守られる働き方、夕方6時には家に帰り、家族で晩ご飯を食べてお風呂に入ってからには子どもが眠れる、そういう働き方をしている、経済もまわっていく、そういう社会であってほしいですね。

心を通い合わせ

家庭環境が厳しい子どもは、多くが、「この世の中は全部敵」「どうせ私のことなんて、みんなキラインんでしょ」と目をつりあげ

て、周囲との関係を断つようふるまいます。本当は、家族や友だちと心を通い合わせてステキな自分でありたいのです。

小さな子どもの情緒は、ぐくむためには、親にゆとりがあつてわが子がかわいと思えること、子どもが自分の親の前で自分をさらけ出せることがとても大事です。親子がしっかりとかわれる時間を保障できるだけの経済条件がないと難しいのです。親の労働実態はそのようなゆとりからかけ離れています。

保育園では、小さなうちから一緒に育つ仲間のなかで生活し、たくさん遊びのなかで友だちとの関係をつくりたい。大好きなおとなやオモチャを目標してみんなでハイハイしたり、砂

場で大きな山を作ったり、夏は水かけっこをしたり。友だちと一緒に楽しく食事することや目があつたらにっこり笑うこと。楽しいことの隣に友だちがいる、そういう経験を積み重ねることが自分と社会への信頼を強くします。

保育園は学校に行く前の準備段階ではありません。自分の思いを言葉で伝えること、相手の思いを言葉で理解すること、思いを伝えあいながら、妥協ではなく相手を理解し納得する、そういう力をつけていくことが、子どもたちの生きる力になります。

信頼関係の一步

困難を抱える親子に対して、保健所や役所が介入できる関係をつくるのが難

しいという問題があります。保育園は毎日送迎がありますから、保護者との関係をつくりやすい施設です。「きょうはこうだったよ」と、子どものこと、保護者と話ができる。それが信頼関係の第一歩です。

子どもが難しさを抱えているとき、親の置かれている社会状況に思いをはせることはとても大事です。親の思いに共感しながら、具体的な援助の方法を考えることが必要です。保育士がそうした役割を果たせるよう、保育士の配置基準など最低基準の抜本的改善が必要ですし、保育士の経験が蓄積されて継承できるだけの、働き続けられる専門職としての待遇改善が求められます。